

2022・1

# 柏の景気情報

令和4（2022）年1月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

T E L : 04-7162-3305

F A X : 04-7162-3323

U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E - m a i l : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

# 柏の景気情報 (令和4年1月の調査結果のポイント)

## ★調査結果のまとめ

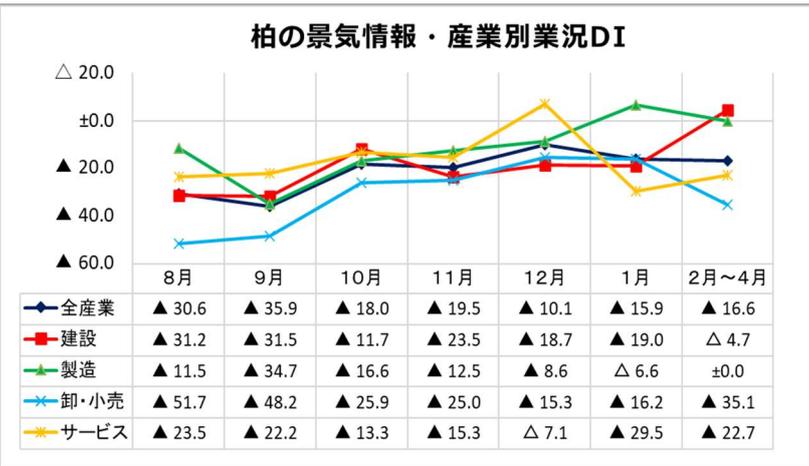
調査期間: 令和4年1月25日～2月7日 調査対象: 柏市内183事業所及び組合にヒアリング、回答数132

### 全産業DIは再び悪化。先行きは業種により回復への期待感が見られるも、感染拡大の影響は続く見通し

1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.9(前月水準▲10.1)となり、マイナス幅が5.8ポイント悪化した。

まん延防止等重点措置の実施により、製造業を除いた業種でDI値が悪化。大きく悪化したサービス業からは、感染者急増で団体予約がキャンセルという飲食店や、展示会の延期や中止で過去最低の売上予測という室内装飾業からコメントがあった。DI値が改善した製造業からは、仕入単価上昇で販売価格を改定し、販売状況は好転、ネットを通じた問合せも増加との声があった。

先行きDI値は▲16.6(前月比▲0.7)と悪化を見込むが、建設業ではプラスへ転じる見通し。

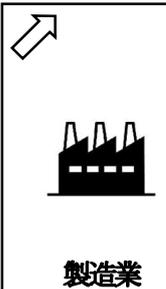


## ★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



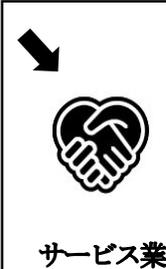
「人手不足が常にあり、外国人雇用を考へるも 経費、賃金を考慮すると改善しない。仕入単価が上昇し続けると得意先に単価の交渉をせざるを得ないが、期待できない」(とび)、「働き方改革により週休2日が定着してきてありがたい」(畳)、「年度末なので、駆け込み需要が多い」(土木工事)、「人手不足がマンネリ化。材料費高騰でも受注金額は変わらず。請求できるのが遅く、資金繰りに悪影響」(電気工事)



「一時的に売上が上昇していたが、オミクロン株による感染拡大で、1月後半からの製造予定が減少。今後、工場内での感染も予想されるので、在庫の積み増し、人員のやりくり等の施策を検討する」(酒類)、「電気・資材部品の不足や値上がりが続いており、出口が見えない。数か月後には装置を作れない事態が現実的になりそう」(機械・同部品)、「輸入に依存している油脂類やケミカル類の一部が欠品、高騰」(自動車付属品)、「今月は陽性者、濃厚接触者で休む従業員が出た。社内のBCP確立が急がれる。障害者委託訓練を受け入れて実習の場を提供し、経営理念の「地域社会に貢献すること」を体現した」(金属製品)、「SDGsの取組で、社員の名刺にバナナペーパーを使用。発展途上国で作られた原料や製品を適正な価格で継続的に購入する仕組みの、フェアトレードペーパーである」(印刷)、「原料素材仕入れ単価上昇に伴い、販売価格改定はほぼ終了した。12月から既存顧客への販売状況好転。ネットを通じての新規問い合わせ増加により、今後の見通しに期待感」(高機能繊維製品)



「上向いていた衣料品の売上が激減。巣ごもりの傾向が出始めている。バレンタインの立ち上がりは好調」(大型小売店)、「柏市のpaypay還元キャンペーンの効果あり」(洋菓子店)、「世界的な株安、コストプッシュインフレ、アメリカに起因する海上コンテナの価格高騰、本船の遅延など世界的に見て数か月はとても悪くなると思う」(フォークリフト建設機械販売)、「昨年未の雪と気温低下で、品薄による仕入価格上昇。飲食店の営業自粛で卸売販売も大きく減少。今後の個人消費の伸びに期待」(青果卸小売)、「半導体不足による商品不足は危機的!ソフトウェアやクラウド商品の販売に切り替えてしのぐ」(事務機器販売)、「輸入魚介類は、中国・欧米の旺盛な買付に日本が買い負けて、今後も高単価の魚介類を輸入せざるを得ない」(水産物卸売)



「家族が濃厚接触者になったり、かぜ症状がある場合に出席させていいのか、微妙な例が出ている。各学校により対応が異なり混乱している」(学習塾)、「半導体不足により車両の入れ替えが計画的に実施できず、業務に支障が出る恐れがある」(一般貨物自動車運送)、「年明けから感染者急増で、新年会の団体予約がすべてキャンセル」(日本料理)、「コロナの影響と海外からの製品入荷のめどが立たず、メーカーなどの展示会の延期や中止で1月としては過去最低の売上予測」(室内装飾)、「年末までは良かったが、コンサート、企業式典などのキャンセルが相次いでいる」(イベント企画運営)、「多くの留学生が入国禁止で、授業料収入を得られない」(日本語教育)、「フィリピンへの輸出について、船賃は値上がり、コンテナを出荷した後マニラ到着までの日数がコロナと北京オリンピックの影響で通常より1か月以上かかっている。本数は増やせず、利益に影響」(廃棄物処理・清掃)、「コロナの影響で物件減少。また、資材高騰で建築価額が値上がりしている。全体に業況は悪化」(不動産管理)

## ★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲15.9に対し、「CCI-LOBO」が▲18.2で柏の方がマイナス幅が2.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上悪い。

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測 (1月速報)

調査期間：2022年1月14日～20日

調査対象：全国の334商工会議所が2,599企業にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

業況DIは、オミクロン株の感染拡大により悪化。先行きは、感染急拡大への警戒感が厳しい見通し

1月の全産業合計の業況DIは、▲18.2と、前月から▲2.4ポイントの悪化。自動車関連で生産回復の動きが見られる製造業や、消費者マインドの回復により年初の初売りが好調だった小売業の業況感が改善した。一方、新型コロナウイルスのオミクロン株の感染拡大に伴い、飲食業、宿泊業などのサービス業では、イベントの中止や予約のキャンセルが相次ぎ、客足が急減した。また、幅広い業種で、部品供給制約による納品遅れ、原油価格を含む資源価格や原材料費の上昇によるコスト増加が続いており、中小企業の業況改善に向けた動きは継続も、足元で鈍さが見られる。先行きについては、先行き見通しDIが▲27.4（今月比▲9.2ポイント）と悪化を見込む。オミクロン株の感染急拡大による営業時間短縮や人流抑制などの活動

制約、春の観光需要喪失を不安視する声は多い。また、部品供給制約の長期化、資源価格の高騰、円安、人件費上昇などのコスト増加分の価格転嫁の遅れによる業績悪化への懸念もあり、中小企業の景況感は先行きへの警戒感が強まり、厳しい見方となっている。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業、卸売業、サービス業で悪化、その他の業種で改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「地域の公共工事の下支えがあり、売上は堅調。ただし、繰越工事量が少ないため、今後の早期発注に期待している」（一般工事業）、「メーカーの在庫不足により設備機器の入荷時期が遅れ、工期が長引いている。工期延長に伴い経費が増加しているものの、費用の補填

がないため採算が悪化している」（管工事業）

【製造業】「産業用設備機械や建築用部材など各方面からの引き合いが伸びており、経済回復の兆しと在庫確保に向けた動きを感じている。一方、原材料費や人件費のコストが増加しており、販売価格への転嫁を検討している」（金属加工機械製造業）、「年末年始はスーパーマーケットからの受注が好調だったものの、小麦粉などの原材料費や燃料費の上昇が続いており、先行きに対する不安感は拭えない」（食料品製造業）

【卸売業】「木材の価格上昇が続いているほか、合板の入手が困難になっている。給湯器やトイレなどの住宅設備の納期も長期化しており、販売機会の損失が生じている」（建築材料卸売業）、「飲食店など外食向けの引き合いが一時的に伸びていたものの、年明け以降新型コロナウイルスが急速に感染拡大したことから、受注量に影響が始めている」（食料品卸売業）

【小売業】「年末年始は帰省客もおり、前年度並みの売上は維持できた。ただし、小麦、油などの価格が上昇していることに加え、人手不足による人件費も上昇しており、経営環境は厳しくなっている」（総合スーパー）、「冬物セールの真っ只中であり、売上は増加した。オミクロン株の感染拡大により需要が急速に低下することが不安ではあるものの、円安や資源高により商品の調達コストが増加しており、今後の値上げは避けられない」（衣料品小売業）

【サービス業】「順調に観光客や団体客の予約が増えている矢先にオミクロン株が全国的に感染拡大し、軒並みキャンセルとなってしまった。今後まん延防止等重点措置の適用地域が拡大すれば、一段の売上減少が予想され、先行きが不安である」（飲食業）、「原油価格の高止まりが経営を圧迫している。複数の取引先に対し、運賃の値上げを交渉しているが、思うように進まず苦慮している」（運送業）

### 全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
8月	▲29.4	▲20.9	▲12.5	▲30.7	▲44.4	▲37.9
9月	▲33.2	▲18.7	▲18.1	▲35.0	▲48.0	▲43.8
10月	▲28.9	▲22.1	▲14.7	▲32.1	▲42.2	▲34.8
11月	▲21.1	▲18.2	▲13.7	▲20.8	▲35.2	▲18.9
12月	▲15.8	▲16.3	▲9.3	▲11.6	▲30.0	▲12.5
1月	▲18.2	▲21.5	▲6.9	▲18.1	▲26.7	▲20.4
見通し	▲27.4	▲24.8	▲16.0	▲24.4	▲34.7	▲35.5

# 今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
<b>業況DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 15.9	 ▲ 19.0	 6.6	 ▲ 16.2	 ▲ 29.5
CCI-LOBO	 ▲ 18.2	 ▲ 21.5	 ▲ 6.9	 ▲ 26.7	 ▲ 20.4
<b>売上DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 0.7	 ▲ 4.7	 16.6	 2.7	 ▲ 13.6
CCI-LOBO	 ▲ 8.9	 ▲ 19.8	 ▲ 1.3	 ▲ 17.2	 ▲ 5.4
<b>採算DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 14.3	 ▲ 19.0	 ▲ 6.6	 ▲ 16.2	 ▲ 15.9
CCI-LOBO	 ▲ 20.8	 ▲ 22.4	 ▲ 19.4	 ▲ 26.5	 ▲ 17.8
<b>仕入単価DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 56.0	 ▲ 52.3	 ▲ 83.3	 ▲ 67.5	 ▲ 29.5
CCI-LOBO	 ▲ 57.6	 ▲ 71.4	 ▲ 68.3	 ▲ 50.2	 ▲ 46.5
<b>従業員DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 15.9	 33.3	 13.3	 21.6	 4.5
CCI-LOBO	 16.5	 30.7	 13.3	 10.2	 17.4
<b>資金繰りDI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 9.8	 ▲ 9.5	 ▲ 13.3	 ▲ 2.7	 ▲ 13.6
CCI-LOBO	 ▲ 15.2	 ▲ 7.7	 ▲ 12.7	 ▲ 21.4	 ▲ 19.1

# 令和4年（2022年）1月の動向

## 【業況について】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.9(前月水準▲10.1)となり、マイナス幅が5.8ポイント悪化した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△6.6(同▲8.6)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲27.9(同△7.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲22.7(同▲18.7)、卸小売業▲16.2(同▲15.3)である。

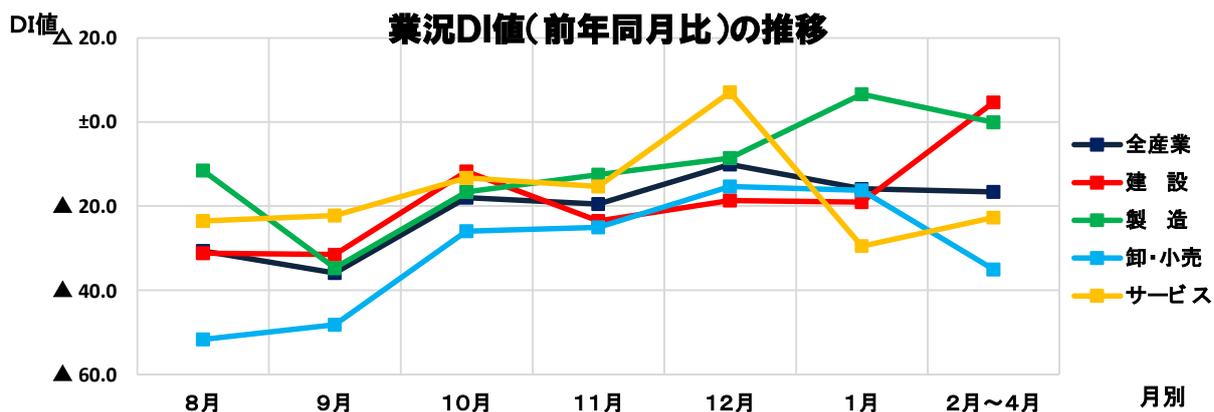
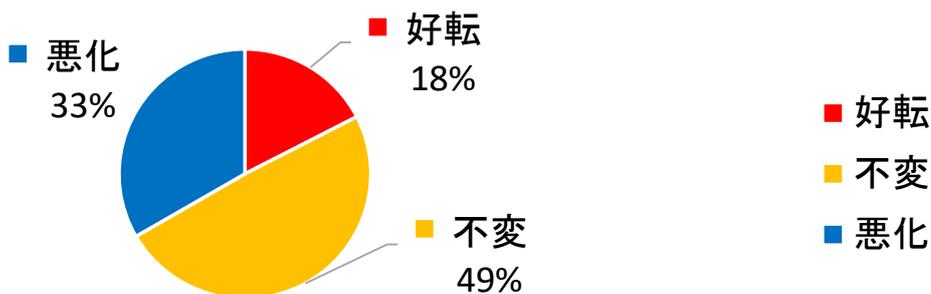
○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲16.6(前月水準▲30.3)となり、マイナス幅が13.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業△4.5(同▲37.5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業±0.0(同▲34.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲35.1(同▲26.9)、サービス業▲23.2(同▲21.4)である。

業況DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和3年 8月	9月	10月	11月	12月	令和4年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲30.6	▲35.9	▲18.0	▲19.5	▲10.1	▲15.9	▲16.6(▲30.3)
建設	▲31.2	▲31.5	▲11.7	▲23.5	▲18.7	▲19.0	△4.7(▲37.5)
製造	▲11.5	▲34.7	▲16.6	▲12.5	▲8.6	△6.6	±0.0(▲34.7)
卸・小売	▲51.7	▲48.2	▲25.9	▲25.0	▲15.3	▲16.2	▲35.1(▲26.9)
サービス	▲23.5	▲22.2	▲13.3	▲15.3	△7.1	▲29.5	▲22.7(▲21.4)

## 前年同月と比べた今月の業況について



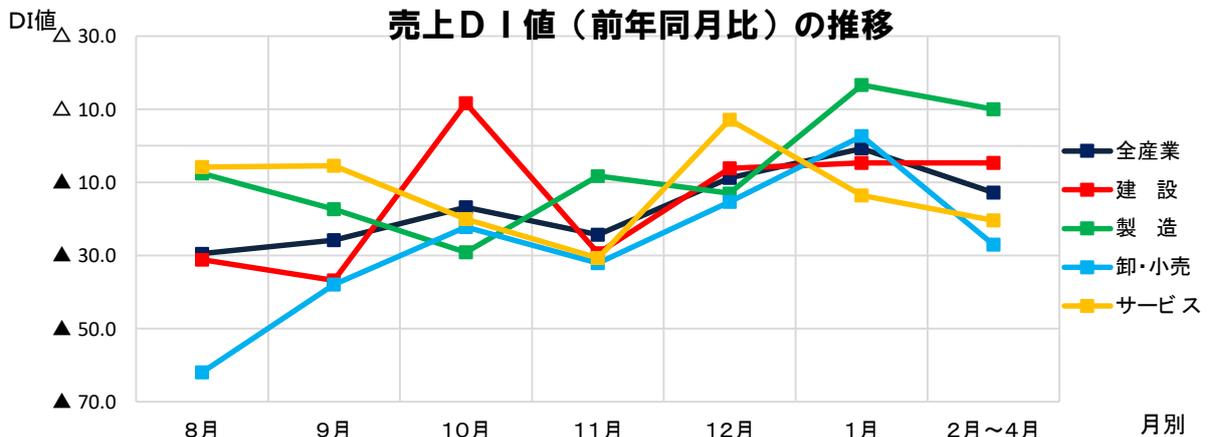
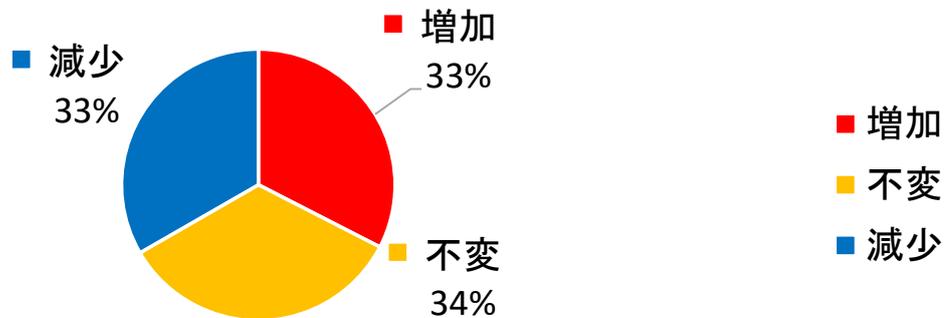
【売上について】

- 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲0.7(前月水準▲8.8)となり、マイナス幅が8.1ポイント縮小した。  
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、幅の大きい順に、製造業△16.6(同▲13.0)、卸小売業△2.7(同▲15.3)である。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲4.7(同▲6.2)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲13.6(同△7.1)である。
- 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.8(前月水準▲22.7)となり、マイナス幅が9.9ポイント縮小する見通しである。  
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△10.0(同▲21.7)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲4.7(同▲18.7)、卸小売業▲27.0(同▲30.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲20.4(同▲14.2)である。

売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和3年 8月	9月	10月	11月	12月	令和4年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲29.5	▲25.8	▲16.8	▲24.3	▲8.8	▲0.7	▲12.8(▲22.7)
建設	▲31.2	▲36.8	△11.7	▲29.4	▲6.2	▲4.7	▲4.7(▲18.7)
製造	▲7.6	▲17.3	▲29.1	▲8.3	▲13.0	△16.6	△10.0(▲21.7)
卸・小売	▲62.0	▲37.9	▲22.2	▲32.1	▲15.3	△2.7	▲27.0(▲30.7)
サービス	▲5.8	▲5.5	▲20.0	▲30.7	△7.1	▲13.6	▲20.4(▲14.2)

前年同月と比べた今月の売上について



【採算について】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.3(前月水準▲20.2)となり、マイナス幅が5.9ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲6.6(同▲30.4)、建設業▲19.0(同▲25.0)、卸小売業▲16.2(同▲19.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲15.9(同±0.0)である。

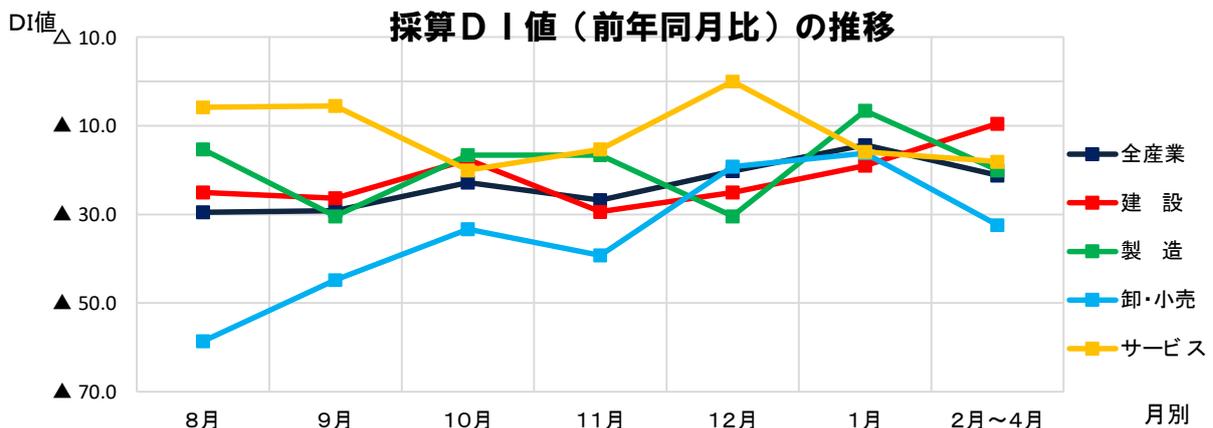
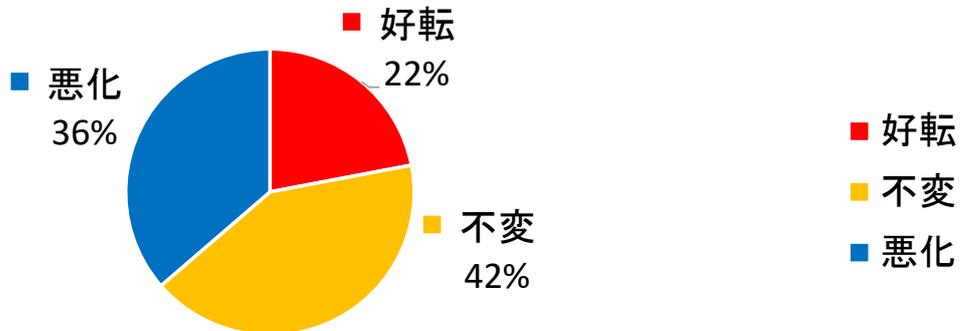
○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.2(前月水準▲26.5)であり、マイナス幅が5.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲20.0(同▲39.1)、建設業▲9.5(同▲25.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲32.4(同▲23.0)、サービス業▲18.1(同▲14.2)である。

採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和3年 8月	9月	10月	11月	12月	令和4年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲29.5	▲29.2	▲22.8	▲26.8	▲20.2	▲14.3	▲21.2(▲26.5)
建設	▲25.0	▲26.3	▲17.6	▲29.4	▲25.0	▲19.0	▲9.5(▲25.0)
製造	▲15.3	▲30.4	▲16.6	▲16.6	▲30.4	▲6.6	▲20.0(▲39.1)
卸・小売	▲58.6	▲44.8	▲33.3	▲39.2	▲19.2	▲16.2	▲32.4(▲23.0)
サービス	▲5.8	▲5.5	▲20.0	▲15.3	±0.0	▲15.9	▲18.1(▲14.2)

前年同月と比べた今月の採算について



【仕入単価について】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲56.0(前月水準▲64.5)となり、マイナス幅が8.5ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲29.5(同▲42.8)、卸小売業▲67.5(同▲69.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲52.3(同▲50.0)、製造業▲83.3(同▲82.6)である。

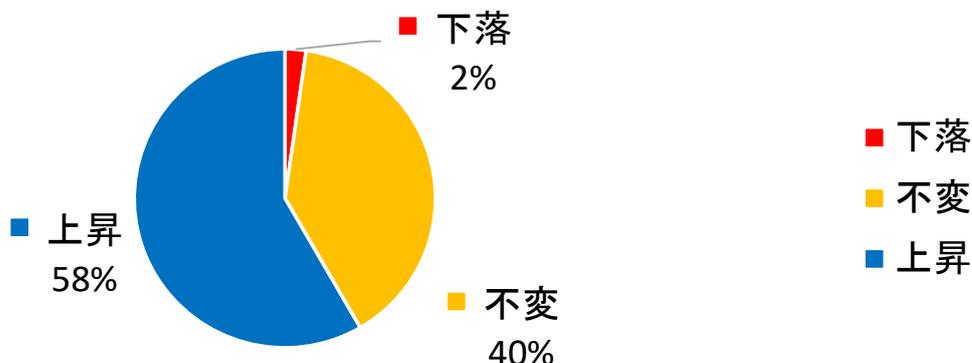
○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲52.2(前月水準▲53.1)となり、マイナス幅が0.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲56.7(同▲50.0)、製造業▲80.0(同▲73.9)、建設業▲52.3(同▲50.0)、サービス業▲29.5(同▲28.5)である。

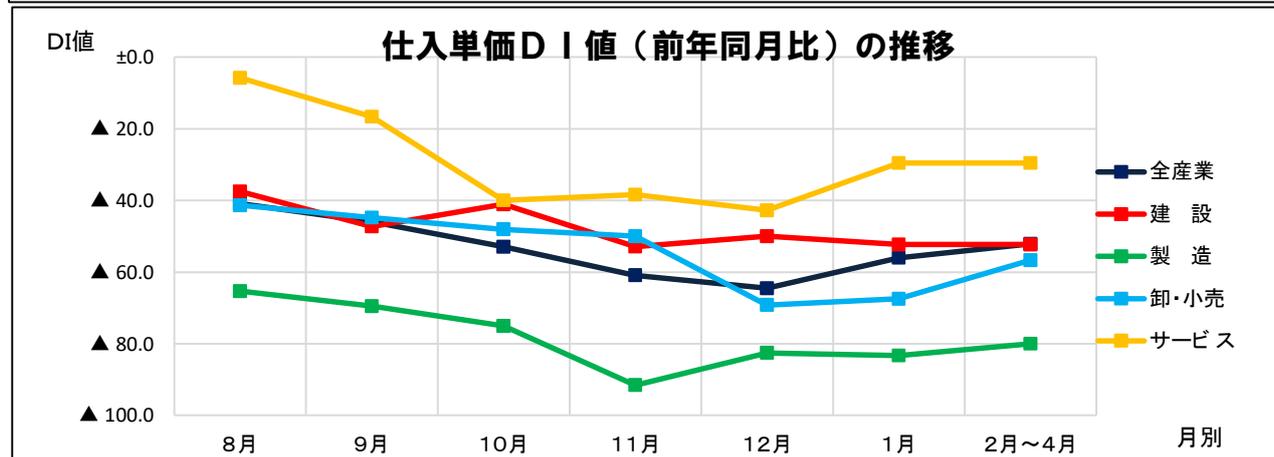
仕入単価DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

	令和3年 8月	9月	10月	11月	12月	令和4年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲40.9	▲46.0	▲53.0	▲60.9	▲64.5	▲56.0	▲52.2(▲53.1)
建設	▲37.5	▲47.3	▲41.1	▲52.9	▲50.0	▲52.3	▲52.3(▲50.0)
製造	▲65.3	▲69.5	▲75.0	▲91.6	▲82.6	▲83.3	▲80.0(▲73.9)
卸・小売	▲41.3	▲44.8	▲48.1	▲50.0	▲69.2	▲67.5	▲56.7(▲50.0)
サービス	▲5.8	▲16.6	▲40.0	▲38.4	▲42.8	▲29.5	▲29.5(▲28.5)

前年同月と比べた今月の仕入単価について



仕入単価DI値(前年同月比)の推移



【従業員について】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△15.9(前月水準△16.4)となり、プラス幅が0.5ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業△21.6(同△7.6)、製造業△13.3(同△8.6)、建設業△33.3(同△31.2)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△4.5(同△28.5)である。

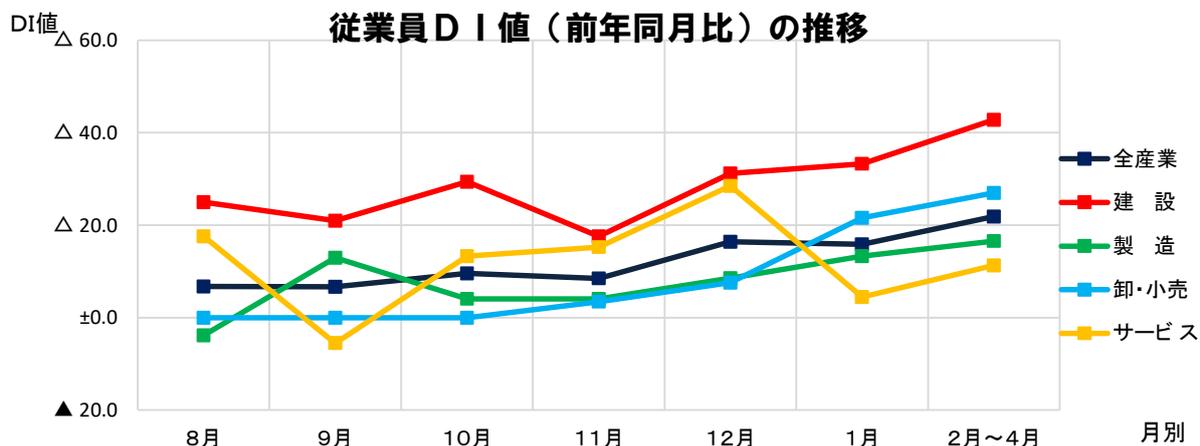
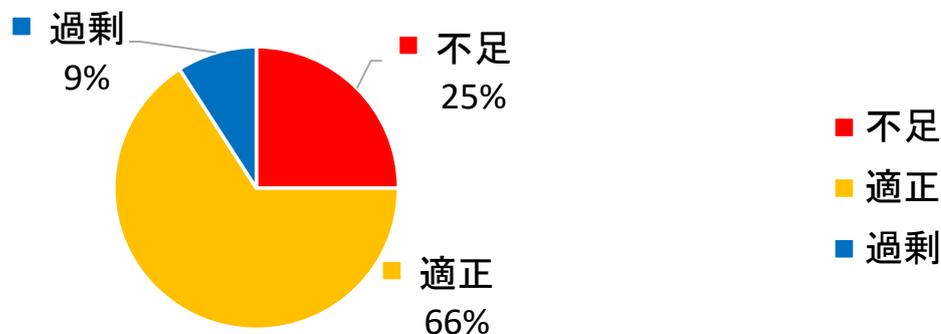
○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、△21.9(前月水準△20.2)となり、プラス幅が1.7ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業△27.0(同△11.5)、建設業△42.8(同△37.5)、製造業△16.6(同△13.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△11.3(同△28.5)である。

従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和3年 8月	9月	10月	11月	12月	令和4年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	△6.8	△6.7	△9.6	△8.5	△16.4	△15.9	△21.9(△20.2)
建設	△25.0	△21.0	△29.4	△17.6	△31.2	△33.3	△42.8(△37.5)
製造	▲3.8	△13.0	△4.1	△4.1	△8.6	△13.3	△16.6(△13.0)
卸・小売	±0.0	±0.0	±0.0	△3.5	△7.6	△21.6	△27.0(△11.5)
サービス	△17.6	▲5.5	△13.3	△15.3	△28.5	△4.5	△11.3(△28.5)

前年同月と比べた今月の従業員について



【資金繰りについて】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲9.8(前月水準▲11.3)となり、マイナス幅が1.5ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲13.3(同▲30.4)、建設業▲9.5(同▲18.7)、卸小売業▲2.7(同▲11.5)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲13.6(同△28.5)である。

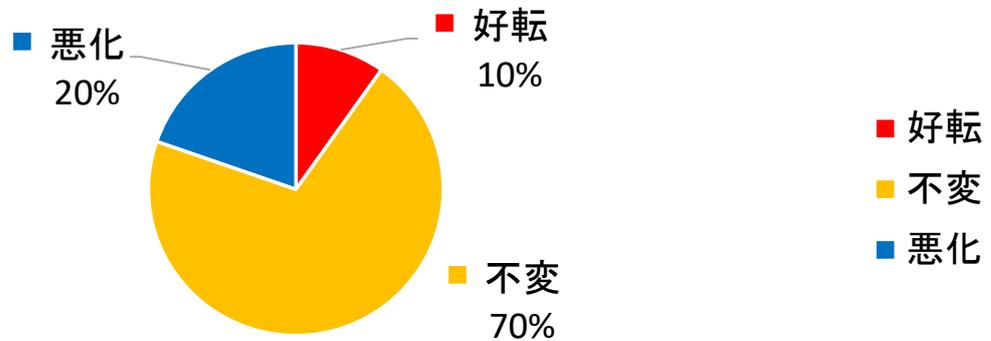
○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.4(前月水準▲21.5)となり、マイナス幅が4.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業±0.0(同▲18.7)、製造業▲23.3(同▲30.4)、サービス業▲20.4(同▲21.4)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲18.9(同▲15.3)である。

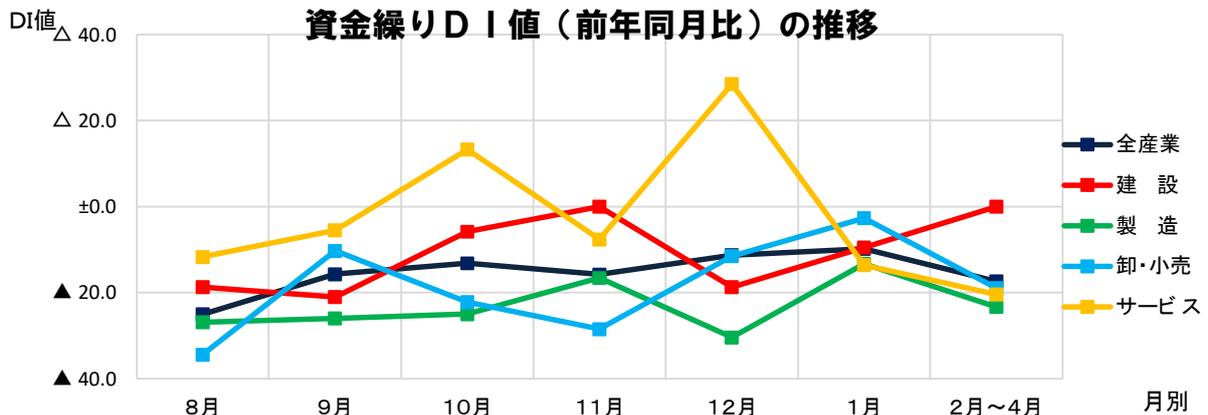
資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和3年 8月	9月	10月	11月	12月	令和4年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲25.0	▲15.7	▲13.2	▲15.8	▲11.3	▲9.8	▲17.4(▲21.5)
建設	▲18.7	▲21.0	▲5.8	±0.0	▲18.7	▲9.5	±0.0(▲18.7)
製造	▲26.9	▲26.0	▲25.0	▲16.6	▲30.4	▲13.3	▲23.3(▲30.4)
卸・小売	▲34.4	▲10.3	▲22.2	▲28.5	▲11.5	▲2.7	▲18.9(▲15.3)
サービス	▲11.7	▲5.5	△13.3	▲7.6	△28.5	▲13.6	▲20.4(▲21.4)

前年同月と比べた今月の資金繰りについて



資金繰りDI値(前年同月比)の推移



## 調査結果のポイント

### ◀全産業D I は再び悪化。先行きは業種により回復への期待感が見られるも、感染拡大の影響は続く見通し▶

1月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.9(前月水準▲10.1)となり、マイナス幅が5.8ポイント悪化した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業▲6.6(同▲8.6)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲27.9(同△7.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲22.7(同▲18.7)、卸小売業▲16.2(同▲15.3)である。

まん延防止等重点措置の実施により、製造業を除いた業種でD I 値が悪化。大きく悪化したサービス業からは、感染者急増で団体予約がキャンセルという飲食店や、展示会の延期や中止で過去最低の売上予測という室内装飾業からコメントがあった。D I 値が改善した製造業からは、仕入単価上昇で販売価格を改定し、販売状況は好転、ネットを通じた問合せも増加との声があった。

先行きD I 値は▲16.6(前月比▲0.7)と悪化を見込むが、建設業ではプラスへ転じる見通し。

【建設業】からは、「人手不足が常にあり、外国人雇用を考えるも 経費、賃金を考慮すると改善しない。仕入単価が上昇し続けると得意先に単価の交渉をせざるを得ないが、期待できない」(とび)、「働き方改革により週休2日が定着してきてありがたい」(畳)、「年度末なので、駆け込み需要が多い」(土木工事)、「人手不足がマンネリ化。材料費高騰でも受注金額は変わらず。請求できるのが遅く、資金繰りに悪影響」(電気工事)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「一時的に売上が上昇していたが、オミクロン株による感染拡大で、1月後半からの製造予定が減少。今後、工場内での感染も予想されるので、在庫の積み増し、人員のやりくり等の施策を検討する」(酒類)、「電気・資材部品の不足や値上がりが続いており、出口が見えない。数か月後には装置を作れない事態が現実的になりそう」(機械・同部品)、「輸入に依存している油脂類やケミカル類の一部が欠品、高騰」(自動車付属品)、「今月は陽性者、濃厚接触者で休む従業員が出た。社内のBCP確立が急がれる。障害者委託訓練を受け入れて実習の場を提供し、経営理念の「地域社会に貢献すること」を体現した」(金属製品)、「SDGsの取組で、社員の名刺にバナナペーパーを使用。発展途上国で作られた原料や製品を適正な価格で継続的に購入する仕組みの、フェアトレードペーパーである」(印刷)、「原料素材仕入れ単価上昇に伴い、販売価格改定はほぼ終了した。12月から既存顧客への販売状況好転。ネットを通じての新規問い合わせ増加により、今後の見通しに期待感」(高機能繊維製品)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「上向いていた衣料品の売上が激減。巣ごもりの傾向が出始めている。バレンタインの立ち上がりは好調」(大型小売店)、「柏市のpay pay還元キャンペーンの効果あり」(洋菓子店)、「世界的な株安、コストプッシュインフレ、アメリカに起因する海上コンテナの価格高騰、本船の遅延など世界的に見て数か月はとても悪くなると思う」(フォークリフト建設機械販売)、「昨年末の雪と気温低下で、品薄による仕入価格上昇。飲食店の営業自粛で卸販売も大きく減少。今後の個人消費の伸びに期待」(青果卸小売)、「半導体不足による商品不足は危機的！ソフトウェアやクラウド商品の販売に切り替えてのぐ」(事務機器販売)、「輸入魚介類は、中国・欧米の旺盛な買付に日本が買い負けて、今後も高単価の魚介類を輸入せざるを得ない」(水産物卸売)とのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「家族が濃厚接触者になったり、かぜ症状がある場合に出席させていいのか、微妙な例が出ている。各学校により対応が異なり混乱している」(学習塾)、「半導体不足により車両の入れ替えが計画的に実施できず、業務に支障が出る恐れがある」(一般貨物自動車運送)、「年明けから感染者急増で、新年会の団体予約がすべてキャンセル」(日本料理)、「コロナの影響と海外からの製品入荷のめどが立たず、メーカーなどの展示会の延期や中止で1月としては過去最低の売上予測」(室内装飾)、「年末までは良かったが、コンサート、企業式典などのキャンセルが相次いでいる」(イベント企画運営)、「多くの留学生が入国禁止で、授業料収入を得られない」(日本語教育)、「フィリピンへの輸出について、船賃は値上がり、コンテナを出荷した後マニラ到着までの日数がコロナと北京オリンピックの影響で通常より1か月以上かかっている。本数は増やせず、利益に影響」(廃棄物処理・清掃)、「コロナの影響で物件減少。また、資材高騰で建築価額が値上がりしている。全体に業況は悪化」(不動産管理)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
8月	▲30.6	▲31.2	▲11.5	▲51.7	▲23.5
9月	▲35.9	▲31.5	▲34.7	▲48.2	▲22.2
10月	▲18.0	▲11.7	▲16.6	▲25.9	▲13.3
11月	▲19.5	▲23.5	▲12.5	▲25.0	▲15.3
12月	▲10.1	▲18.7	▲8.6	▲15.3	△7.1
1月	▲15.9	▲19.0	△6.6	▲16.2	▲29.5
見通し	▲16.6	△4.7	±0.0	▲35.1	▲22.7

通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し

## 【産業別】 今月及び先行きのD I 値

	売上高（受注・出荷）		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 0.7	▲ 12.8	▲ 14.3	▲ 21.2	▲ 56.0	▲ 52.2	△ 15.9	△ 21.9
建設	▲ 4.7	▲ 4.7	▲ 19.0	▲ 9.5	▲ 52.3	▲ 52.3	△ 33.3	△ 42.8
製造	△ 16.6	△ 10.0	▲ 6.6	▲ 20.0	▲ 83.3	▲ 80.0	△ 13.3	△ 16.6
卸・小売	△ 2.7	▲ 27.0	▲ 16.2	▲ 32.4	▲ 67.5	▲ 56.7	△ 21.6	△ 27.0
サービス	▲ 13.6	▲ 20.4	▲ 15.9	▲ 18.1	▲ 29.5	▲ 29.5	△ 4.5	△ 11.3

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 15.9	▲ 16.6	▲ 9.8	▲ 17.4
建設	▲ 19.0	△ 4.7	▲ 9.5	±0.0
製造	△ 6.6	±0.0	▲ 13.3	▲ 23.3
卸・小売	▲ 16.2	▲ 35.1	▲ 2.7	▲ 18.9
サービス	▲ 29.5	▲ 22.7	▲ 13.6	▲ 20.4

# CCI - LOBOとの比較

## 【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

- 【業況DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲15.9に対し、「CCI-LOBO」が▲18.2で柏の方がマイナス幅が2.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲0.7に対し、「CCI-LOBO」が▲8.9で柏の方がマイナス幅が8.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、サービス業である。
- 【採算DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲14.3に対し、「CCI-LOBO」が▲20.8で柏の方がマイナス幅が6.5ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、卸小売業、サービス業であり、製造業、卸小売業は10ポイント以上良い。
- 【仕入単価DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲64.5に対し、「CCI-LOBO」が▲57.3で柏の方がマイナス幅が7.2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業、サービス業であり、10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が△15.9に対し、「CCI-LOBO」が△16.5で柏の方がプラス幅が0.6ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方がよい業種は、建設業、卸小売業であり、卸小売業は10ポイント以上大きい。変わらない業種は、製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、サービス業であり、10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲9.8に対し、「CCI-LOBO」が▲15.2で柏の方がマイナス幅が5.4ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、卸小売業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業である。

## 【業種別】 業界内トピックス

業種別	概 況	トピック	業種
建設業	人手不足は常にあり外国人雇用を考えるも 経費、賃金などを計算すると特に良い方向には向かない。仕入れ単価がこのまま上昇を続けるようであれば、得意先に単価の交渉をせざるを得ないが、それに依拠してくれる会社は期待できない。	人手不足 仕入れ単価交渉	とび
	働き方改革により週休2日が定着してきたのがとてもありがたい。	働き方改革	畳工事請負・畳製造販売業
	年度末なので、駆け込み需要が多い	年度末の駆け込み需要	土木工事業
	マンネリ化している人手不足、材料費高騰でも受注金額の不変、受注は確保しているが、請求できるまでの期間が遅く資金繰りに悪影響がある。	人手不足 材料費高騰 資金繰りへの影響	電気工事業
製造業	感染症蔓延と半導体不足の影響を受け、依然として出口の見えない状況が続いており、当面の間は業績の好転が見込めない状況にあります。	先行き不透明	電子応用装置製造業
	新型コロナの影響で低迷している化粧品容器(特に口紅容器)の受注は、相変わらず壊滅状態である。昨年末から上昇傾向にある医療品容器の受注も、ここにきてオミクロン株の感染拡大で先行き不安定な状況だ。	化粧品容器受注壊滅 先行き不透明	プラスチック加工
	新型コロナ新規感染者が落ち着いてきていた中で、売上は上昇に向いていたが、オミクロン株による急激な感染者増加に伴い、全国各地にまん延防止等重点措置が適用され、1月後半からの製造予定が減少している。その影響で向こう1～2か月は再度、売上が減少すると思われる。今後は、工場内での感染者増も予想される中で、必要な需要にこたえられるよう、在庫の積み増しや、人員のやりくり等の施策を検討していく予定。	まん延防止等重点措置	酒類製造業
	半導体不足から電気部品が入荷されない。素材、原料が値上がりしている。	半導体不足 原料値上げ	一般産業用機械・装置製造業
	電気部品、資材部品の不足や値上がりが続いており、出口が見えない状況、この先数か月後は装置を作りたくとも作れない事態が現実的になってきた。	部品不足・値上がり	機械・同部品製造業
	今の所、売上に大きな変化はないが、新型コロナウイルスによる影響で少しずつ調達が滞ってきたものが出始めた。特に海外からの輸入に依存したもののうち、油脂類やケミカル類の一部が欠品、高騰し始めている。	油脂・ケミカル類欠品、高騰	自動車付属品製造業
	材料仕入れ単価が毎月のように上昇していて、売単価の値上げ交渉をしても追いつかない。これまでコロナ感染者ゼロで頑張ってきたが今月は陽性者、濃厚接触者で休む従業員が急に増えてきた。社内のBCP確立が急がれる。また、会社として休業せざるを得ない状況になったときに生産をお願いできる場所を探すことも急務である。障害者委託訓練を受け入れて実習の場を提供。経営理念の「地域社会に貢献すること」を体現した。	売単価値上げ交渉 コロナ感染の影響 障害者委託訓練	金属製品
	SDGsの取組で、弊社全員の名刺の台紙にバナナペーパー使用。古紙とバナナの茎の繊維を使用したバナナペーパーは、フェアトレードペーパーです。発展途上で作られた原料や製品を適正な価格で継続的に購入する仕組みで、紙の生産も行われています。	SDGs バナナペーパー フェアトレード	印刷業
	巣ごもり需要がまだ活発。	巣ごもり需要	チェアスピーカーの製造販売
	原料素材仕入れ単価上昇に伴い、販売価格改定はほぼ終了した。12月から既存顧客への販売状況好転。ネットを通じての新規問い合わせ増加により、今後の見通しに期待感。	販売価格の改定 ネット問合せ増	高機能繊維製品製造・卸

## 【業種別】業界内トピックス

	コロナ前との比較では一昨年、昨年ともに悪化しており、上昇の気配は感じられない。もう少し早く回復に転じていると思っていたが長引いている。収入自体が減っている為、事業継続はかなり困難になってきた。	コロナ前と比較し悪化	金属加工業
	医薬関連事業については、一部新型コロナウイルスが追い風となって景況改善に貢献しているよう。	医療関連は景況改善	製造業
卸・小売	コロナ感染急拡大で、上向いていた衣料品の売上げが激減。巣ごもりの傾向が出始めている。今後はその状況が顕著になると予想される。パレンタインの立ち上がりは好調。	衣料品売上激減 巣ごもり傾向 パレンタイン好調	大型小売店
	柏市のP A Y P A Y効果あり。	柏市P A Y P A Y還元キャンペーン	洋菓子店
	オミクロン株が早くピークアウトし、収束することを期待します。それまでは、気を抜くわけにはいきません。防疫プロトコル対策をしっかりと実施して対応していきます。	防疫対策の徹底	大型小売店
	前半は年末に続き良好だったが、後半はまた悪化した。陽性者の拡大により営業に支障が出ている。	1月後半景況悪化 陽性者増加が営業に支障	各種商品小売業
	世界的な株安、コストプッシュインフレ、アメリカ国内の混乱に端を発している海上コンテナの価格高騰、本船の遅延、世界的に見て向こう数カ月は大変悪くなると思います。特にアメリカの混乱が長引いていて大丈夫か？と思います。	海上コンテナ価格高騰 本船の遅延	フォークリフト建設機械販売
	売上の的には落ちるところまで落ちたので上昇を期待するものの、コロナの増加でまん延防止となると、集客が期待できない。	コロナ増加が集客に影響	寝具小売業
	仕入価格の高騰により収益が相当圧迫され、価格転嫁も追いつかない状況。新型コロナウイルス感染増加により、モノの動きが悪い。	仕入価格高騰	卸売業
	当社は、地元産の農産物に特化しているため、天候の影響を大きく受ける特徴がある。昨年末の雪の影響と気温の低下の影響が畑にでており予定の出荷ができない品目や、品薄による仕入れ価格の上昇がみられる。また、市内に大型直売施設がオープンした影響と予想される客数の減少も見られた。新型コロナウイルスの影響で、飲食店の営業自粛による卸売販売の減少も大きい。ただ、例年1月は最も野菜の消費が減少する月であることから今後の個人消費の伸びに期待したい。	雪と気温低下で農産物品薄 仕入価格上昇 競合店オープンで客数減	青果卸小売業
	半導体不足による商品不足は危機的！近年にない状況で、販売商品をソフトウェアやクラウド商品に切り替えて何とかしのぐ。コロナは一巡し、生活様式は本格的に変化して販売商品が大幅に変化。仕入れ価格の上昇、コスト上昇は天井知らず。	販売商品を切り替え コスト上昇	事務機器販売
	仕入価格は全般的に上昇し始めている上、入荷が遅延しており大きな負担になっている。	仕入価格上昇 入荷遅延	釣り具ボート販売
今年1月の売上の昨対比増加は、水産物全般の単価高によるもので、扱い数量は減少している。1月21日より、コロナまん延防止法が適用され水産物の売れ行きが心配されたが、飲食店等業務筋は多少影響あるが、スーパー量販店への販売は減少しておらず昨年並みの売上は確保できそう。海外からの輸入魚介類は、中国・欧米の旺盛な買付により日本は買い負けして、今後も高単価の魚介類を輸入せざるを得ず、単価高が予想される。	取扱数量減少 売上昨年並み 輸入魚介類高騰	水産物卸売業	
スキルUPを目指す。人手不足は深刻である。	人手不足	ソフトウェア業	
調子の良い会社と悪い会社の格差が広がりつつある。	景況の格差	税理士	
コロナの影響で物件減少。また、資材高騰で建築価額が値上がりしている。全体に業況は悪化。早くコロナが沈静化して、平穏な世の中に戻ってほしいと思っている。	物件減少 建築価額値上がり	不動産管理業	

## 【業種別】業界内トピックス

サービス業	<p>家族が濃厚接触者になったが陰性だった場合や、家族にかぜ症状がみられた場合に塾に行かせて良いかなど、判断が微妙なケースが複数出てきた。基本的には学校に出席が許されているかどうかで判断をしているが、判断が学校ごとに異なっている。昨年同様、感染拡大が新学年の募集時期に重なってしまい、新規入会者の出足が鈍ることを懸念している。</p>	<p>塾への出席判断が困難 新規入会への影響</p>	<p>学習塾</p>
	<p>車両の入替も半導体不足により計画的に実施できず、車両の故障等により業務に支障がでる恐れを抱えている。また、燃料の高騰による仕入価格の上昇を運送費に転嫁できず、利益を圧迫している。</p>	<p>半導体不足で車両入替困難 仕入価格上昇</p>	<p>一般貨物自動車運送業</p>
	<p>年明けから感染者急増により、新年会の団体予約がすべてキャンセルに。まん延防止等重点措置になる前に上場企業や年配客はキャンセルの動きに。1月初旬の早い段階で封じ込め策を行った方が、ダメージが少なかった。</p>	<p>新年会予約キャンセル</p>	<p>日本料理</p>
	<p>弊社の学生向け賃貸マンションが2年ぶりに満室になりました。</p>	<p>学生向けマンション満室</p>	<p>不動産賃貸・管理業</p>
	<p>テレワークで対応できる範囲で、営業活動の自粛が継続中。新型コロナウイルス感染第6波により営業活動が抑制されている。</p>	<p>営業活動自粛</p>	<p>地質コンサルタント</p>
	<p>前年同月と比べると昨年12月に引き続き1月も売上等が好転しているが、昨年12月と比べると物件（賃貸店舗、住宅）の動きが減少。オミクロン株の感染拡大が影響していると考えられる。</p>	<p>売上好転 物件の動きが減少</p>	<p>不動産賃貸管理・売買</p>
	<p>オミクロン株の影響により、従業員の確保が懸念される。また流山市を中心とする商業範囲に大型同業他社が出店予定の為、顧客獲得が厳しくなることが予想される。</p>	<p>従業員の確保を懸念 同業他社出店の影響</p>	<p>サービス業</p>
	<p>新型コロナウイルスの蔓延防止の影響と生産国の製品入荷のめどが立たず、メーカーなどの展示会が延期または停止、1月としては過去最低の売上が予測される。2年間のコロナウイルスの影響で売り上げが60%まで落ち込んだのに付け加えて、材料の上昇で利幅が減少。コロナ融資も底をつき、金融関係には条件変更をお願いし経営改善計画事業に着手。残された運転資金でこの状況は芳しくない。</p>	<p>売上大幅減少 材料値上げで利幅減 経営改善計画</p>	<p>室内装飾業</p>
	<p>コロナ融資を少額で何回も借りたため、月々の返済額が高額になっており、キャッシュフローに悪影響を及ぼしている。売上は伸びても、利益幅が減っているため、資金的には楽になっていない。本数をまとめて、月々の返済額を減らしたいが、銀行にも対応してもらえない状況である。</p>	<p>融資返済困難 利益幅減少</p>	<p>貿易業</p>
	<p>コロナのまん延防止等重点措置によって コンサート、イベント、企業式典などのキャンセルが相次いでいます。年末までは良かったんですが。</p>	<p>イベント等キャンセル多発</p>	<p>イベント企画運営</p>
	<p>まん延防止適用で人との交流がさらに難しくなり、昨年末の回復の兆しを見せた動きに冷たい水を刺された格好。2年ぶりに顧客が増加に転じていたが、勢いを阻害されてしまった。もう少し経済に配慮した対策を講じて欲しい。</p>	<p>まん延防止等重点措置の影響</p>	<p>情報通信サービス</p>
	<p>外国人留学生の受け入れを業務としており、多くの留学生が入国禁止で日本に来られず、学校も授業料収入を得られない。</p>	<p>留学生入国禁止で収入減</p>	<p>日本語教育</p>
	<p>新型コロナウイルスの影響が、引き続き資金繰りを難しくしている。</p>	<p>資金繰り困難</p>	<p>飲食業</p>
	<p>変動に左右されにくいサービス業（業務委託）を生業としているため、現状は問題なく運営。</p>	<p>事業運営に問題なし</p>	<p>工場機械設置に関する営業支援</p>
<p>通常のリサイクルに関しては、新型コロナウイルスの影響は特別ない。フィリピン輸出の面で、船賃の値上げ、また、コンテナ出荷後のマニラ到着までの日数が、コロナと北京オリンピックの影響で通常より1か月以上かかる。あまり本数を増やせないため利益が減る可能性がある。</p>	<p>コンテナ到着の遅延</p>	<p>廃棄物処理・清掃</p>	

## 【業種別】業界内トピックス

	新型コロナウイルスの影響がある。	新型コロナウイルスの影響	鍼灸院
	半導体が入らない。価格は通常の100倍（800円→80,000円）で、物が作れません。	半導体価格高騰	電気設計業、プログラム開発
	個人事業ですが、キャパの範囲内での経営なので大きな変化はありません。コロナの影響もありません。	コロナの影響なし	IT開発・サービス

# 調査要領

調査期間

令和4年1月25日 ～ 令和4年2月7日

調査対象

柏市内128事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	183	132	72.1%
建設	37	21	56.8%
製造	41	30	73.2%
卸・小売	51	37	72.5%
サービス	54	44	81.5%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 う3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

## ※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

## ※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				